

CAGLIERO¹¹

カリエロ11

サレジオ会宣教ニュース N.52 - 2013年4月

サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信



サ

レジオ会員の皆さん、サレジオ・ミッションの友人の皆さん！

信仰年の歩みの中、心から主の復活の喜びを申し上げます！ 復活節は、ミサの最後に、「行って、福音を告げなさい！」と呼びかけることができます。

サレジオ会はその歴史を通して、キリスト者共同体が非常に小さい、あるいは全く存在していない地域を、教会からゆだねられてきました。その中には、現在、教区になっているところもあります。中国：韶州（1920）；オーストラリア：キンバリー（1922）；インド：アッサム-シロン（1921）、クリシュナガル（1934）、トゥラ（1935）、ハフロン（1951）、コヒマ-インパール（1957）；タイ：ラップリスラッタニ（1927）；日本：大分-宮崎（1928）；ミャンマー：ラシオ（1938）；ブラジル：グイラティンガ（1901）、リオ・ネグロ（1914）、ポルト・ヴェリョ（1925）、フマイタ（1961）；コロンビア：アリアリ（1964）；グアテマラ：サン・ベドロ・カルチャ（1935）；コンゴ民主共和国：サカニア-ルアブラ（1939）；リビア：テルナ（1939）です。

現在、私たちは、宣教地区 Missio sui juris（アゼルバイジャン、2000年）、使徒座知牧区（エチオピアのガンベッラ、2000年）、使徒座代牧区（エクアドルのメンテス-1897年、パラグアイのチャコ-1918年、ベネズエラのプエルト・アユアクチョ-1946年、グアテマラのエル・ペテン-1995年、ペルーのプカルパ-2009年-大城神父様が司牧している所、）使徒座属人区（メキシコのミヘス、1962）を教会からゆだねられています。人員を強化するため、総長は最近、15人の若い宣教師をこの各地に派遣しました。

<http://tinyurl.com/cwposs2>

サレジオ会が宣教するこれら8つの地域の会員のため、また新しい使徒的召命のために、これらの地域を思い出し、祈りましょう！

Václav Clement
宣教師顧問
ヴァツラフ・クレメンテ神父

私にとり、 教皇の願いは 命令です。

（メモリエ・ビオグラフィケ第5巻、874）

教皇の言葉は、
すべてにおいて、
すべてのために、
私たちの指針でなければ
なりません。 （同第6巻、494）



宣教師のための生涯養成コース ローマ、キート、シロン

福音を告げ知らせる宣教師は、心、精神において絶えず新たにされることが必要です。実際、それは教会の意向でもあります。神のしもべヨハネ・パウロ二世は書いています。「生活が習慣化する危険があり、成果が十分上がらないため失望に陥る誘惑が生じることがあります。ですから、中年に達した奉献された人々は、福音と会のカリスマに照らして、本来の決心を新たにしよう助けられることが必要です。その際、彼らの献身の完成と成果の度合いとを混同してはなりません。」（『奉献生活』70）

サレジオ会は、刷新のためのさまざまな機会を宣教師に提供しています。3か月の長期コース（ほかの修道会にも開かれている）はローマの教皇庁立サレジオ大学で開催されます。このコースは、宣教師となってしばらくたち、再養成の必要性を感じる宣教師のためです。聖書、人間学、心理学、要理教育、宣教論などが取り上げられます。友情と家庭的精神に満ちた環境の中、イエスとの親密な出会いが深められ、体験の分かち合いと交流のために多くの機会が提供されます。サレジオ会員の参加者は、（次のページへ）



赤道アフリカ管区長マノロ・ヒメネス神父へのインタビュー（仏語、英語字幕あり）
vimeo: <http://vimeo.com/62236187>



(前のページから) サレジオ会の聖地への巡礼を通して、会の起源の豊かさとカリスマを再発見する機会にもなります。

サレジオ大学のコースを補う、(サレジオ家族の) 宣教師のための短い3週間のコースが各地域で開催されます。それぞれの地域の状況との対話を深めるためです。1回目は、アメリカ大陸の各地域のため、エクアドルのキートで開催されました(2012年。次回は2014年)。今年の8月、同様のコースがインドのシロンで、アジアの2つの地域のために開催されます。これらのコースに関するより詳しい情報を希望する会員は、宣教部門秘書にお問い合わせください。 jose.anikuzhikattil@gmail.com

宣教部門 ジョセ・アニクジカッティル神父

ミッションは神のもの……私たちの仕事はただ種を蒔くこと!

大学で法律を勉強していたとき、私は一人の女の子と、将来、宣教家族になってアフリカに行こうと計画していました。しかし私は、満たされない気持ちを感じはじめました。幸せでなかったのです。何かが足りない……。私は「内なる声」に耳を傾けはじめ、その声に素直になろうとしました。神の言葉を読み、祈り、探し求めました……。ある日、私は告解をしに行き、何も予期していなかったその場所で、サレジオ会の教会で、心に火がつくのを感じました。あるサレジオ会員の導きのおかげで、イエスが本当に私を呼んでおられることを確認し、自分を永遠に主に捧げることを決心しました。

あらゆるところにニーズがあります。たしかに私たちはニーズに応えるように呼ばれているとしても、本当に必要なのは、ある状況で、私たち一人ひとりの人生において、神が何を求めておられるのかを実際に識別し、目で見、聞くことです。そのように歩んだときにはじめて、私に同伴してくれていた友人のサレジオ会員が、「今、総長に手紙を書いていいよ」と言いました。私は手紙を書き、総長から返事をもらいました。「あなたをパキスタンに派遣します」。アルゼンチンも宣教師を必要としているのに、なぜ私は宣教師になりたいのでしょうか? その答えは、「神が望んでおられるから」です。最終的な規準は神の招きであり、遣わされるのは神です。時とともに、私はこのことをますます確信するようになりました……。



個人的には、私の最大の挑戦は、自分の限界や弱さを認め、それを自分の一部として受けとめることです。逆説的なことですが、不安、心の痛み、孤独、裏切られた気持ち、状況を理解できず、コントロールできないことなどが、私たちの最も深い本当の自分へと導く扉になるのです。信仰のレベルでは、人口の96%がイスラム教徒という国に住むという挑戦は、私にとって「新たに生まれる」(ニコデモのように)、「見る」(バルトロマイのように)、「神の賜物」を再発見する(サマリア人のように)機会になりました。

私の最高の喜びには名前があります: ノーブル、アドナン・サミ、ジュリア、ローム(私のパキスタン人の兄弟姉妹、地元の最初の召命)、ロドリク、アルウィン、クラム、ミス・フィットネス、ミス・サブラ(サレジオ会のカリスマを信徒として生き、愛する人々)、マリア(家庭を訪問したとき一人で泣いていた彼女は今、勉強し、微笑み、デザイナーになりたいと願っています!)、スニル(ドン・ボスコのコースで学んだ彼は今、働き、学び、オラトリオのアニメーターとして活躍し、召命の識別をしています……)……

そうです! ミッションは神のものです。季節になれば実らせるのは神です。どれほど? いつ? それは神だけが知っておられます。私たちの仕事はただ種を蒔くことです。わたしたちは毎日、信仰から来る希望、光、喜びのうちに共に暮らしていきます。そして幸せです!

アルゼンチン出身、パキスタンの宣教師
フリオ・バルミエリ神父



サレジオ会の宣教の意向

インターアメリカ地域のサレジオ会に任された司牧区のため

聖座によってインターアメリカ地域のサレジオ会に任された6つの司牧区が、真に文化受容した教会として成長できますように。

福音宣教の働きは、私たちに任された地域の文化を取り上げ、変容させるものでなければなりません。人々の共同体が、普遍教会との交わりのうちに、固有のアイデンティティーを成長させることができるようにするためです。具体的にインターアメリカ地域には、聖座からサレジオ会に任された8つの司牧区のうち5つがあります: メキシコ-ミヘス属人区(1962年より)、グアテマラ-エル・ペテン代牧区(1995年より)、ベネズエラ-プエルト・アユアクチョ代牧区(1946年より)ペルー-プカルパ代牧区(2009年より)、エクアドル-メンデス代牧区(1897年より)です。これらの司牧区の共通する特徴は、貧しく困難な地域に暮らす先住民族の人々のために私たちが働いていること、地元の召命は少なく、会員の数が減っていることです。これらの司牧区を助けるため、この4年間に15人の若い宣教師が派遣されました。

